

# 特集 国際交流で輝く未来 Part2



11月14日から15日にかけて、タイ王国ピッサヌローク県にあるピブンソクラム・ラチャパット大学で日本語教師を務める鈴木恭彦さんが、日本語を学ぶ学生を連れて石岡市を訪問しました。

鈴木さんは当市出身で、旧朝日小学校の卒業生。教え子であるタイの学生たちは、鈴木さんの故郷である石岡市の子どもたちとどのように交流を図ったのかをご紹介します。

## 小幡小学校・石岡第一高等学校



慎重に、慎重に…

○

小幡小学校では、学生たちが児童に対してタイの文化（ダンス・食・歌など）を紹介しました。

珍しい果物や日本とは異なるタイの食文化に児童は興味津々。

その後、6年生の児童と習字を体験した学生たちは、使い慣れない筆と墨汁を慎重に扱いながら、作品を完成させました。

石岡第一高等学校では、通常授業を見学したのち、体を動かすアクティビティを通して交流を深めました。

体を動かし  
リフレッシュ

○



## 小桜小学校

小桜小学校でも、児童に対してタイの文化を紹介した学生たち。タイのダンスを踊った児童からは「独特の動きが面白かった」という感想が聞かれました。

その後、5・6年生の教室へ移動した学生たちは、6つのグループに分かれた児童と昔の遊びや琴の演奏などを体験。児童がタブレット端末の通訳機能を使って日本のアニメなどを紹介するグループでは、共通の趣味が見つかり、盛り上がる様子が見られました。



タイのダンスは  
動きが独特！

○

アニメの趣味は  
世界共通です

○

